

災害に関する情報を別居家族に連絡した経験がある人の特性

○水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

目的

避難に繋がる行動としては直接の呼びかけが強い



災害に関する情報を別居家族に連絡した経験がある人の特性

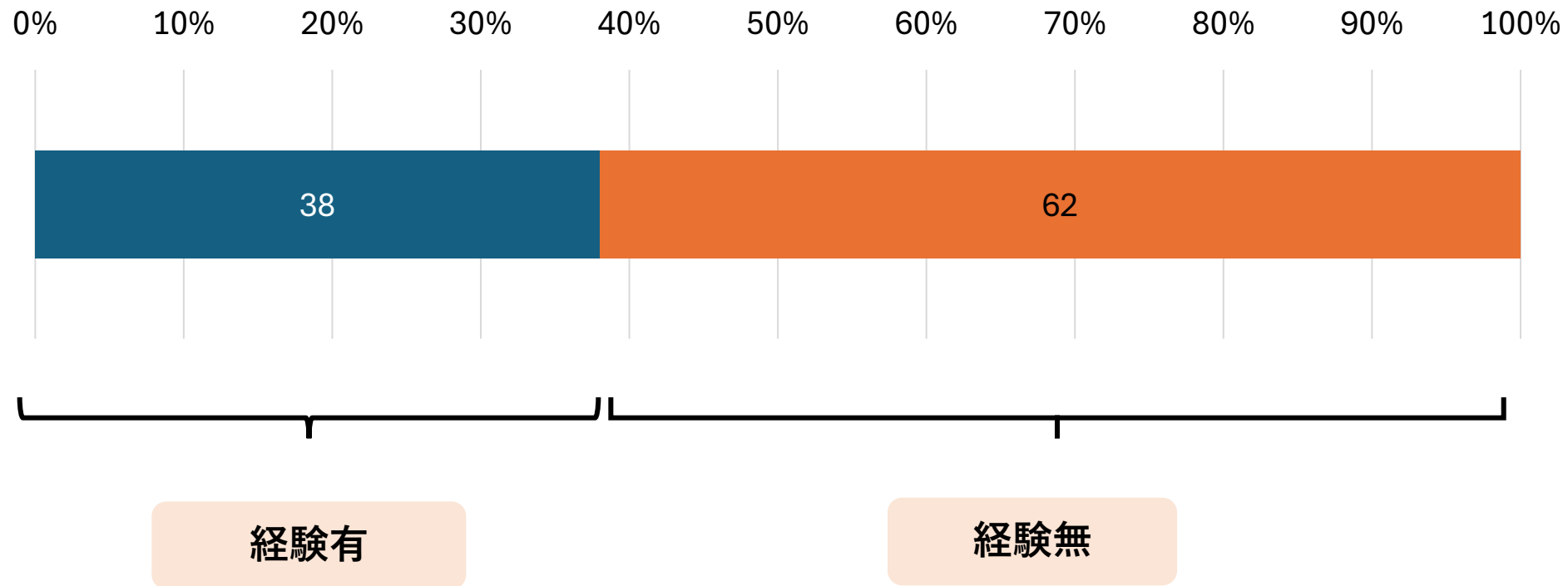
調査概要

調査時期	2024.11
調査方法	web法
調査対象	全国 15-79歳
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・年代・都道府県で割付
回答数	10,335(分析は別居家族いる7,931)

分析方法

ロジスティック回帰分析

別居家族に連絡をとった経験がある人は38%



■メディア接触頻度

インターネット
視聴頻度

テレビ視聴頻
度

新聞視聴頻度

■防災・災害

防災リテラシ
ー

被災経験

■情報への向き合い方

探求

承認

限定

■属性

性別

年齢

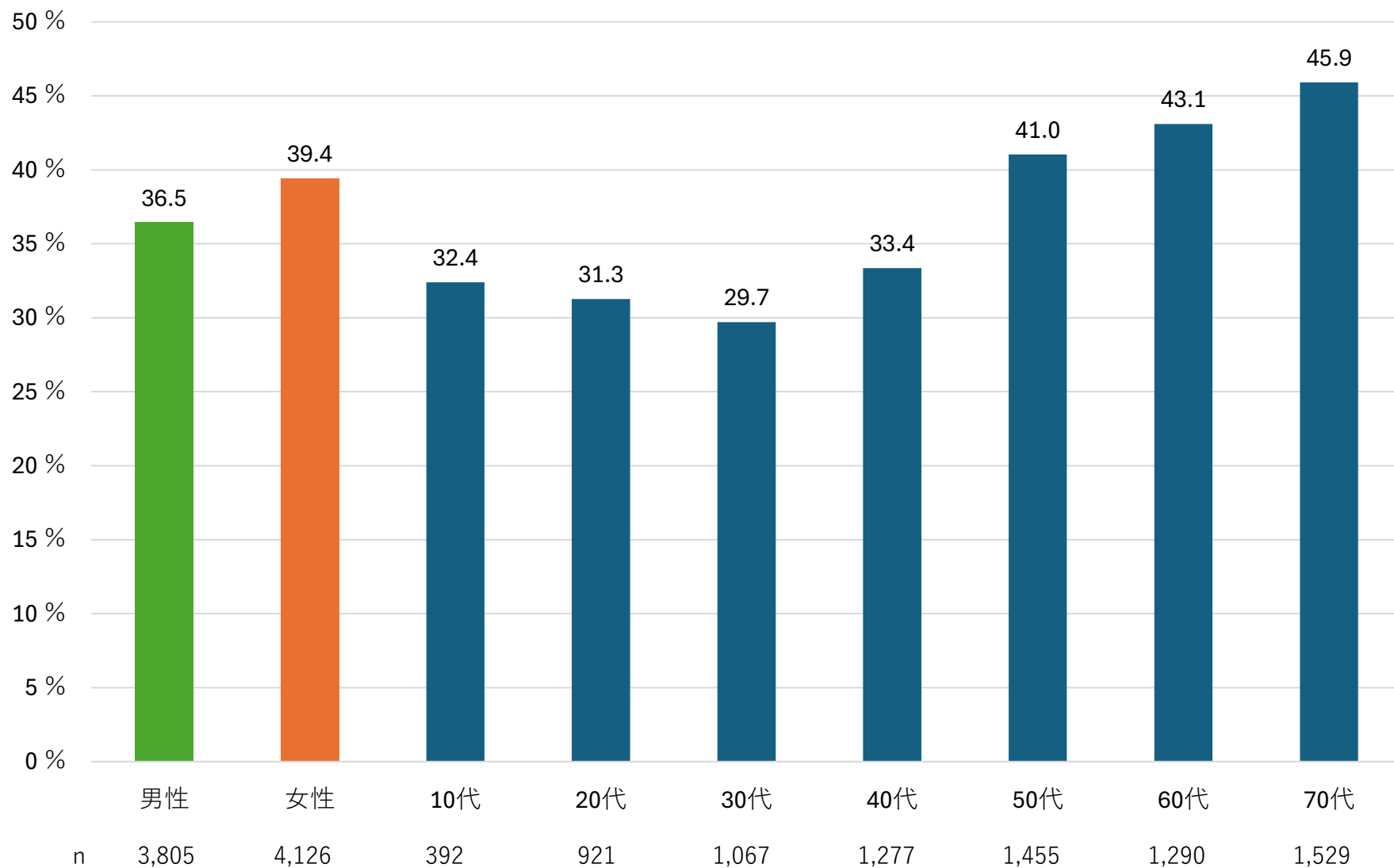
都市規模

地域

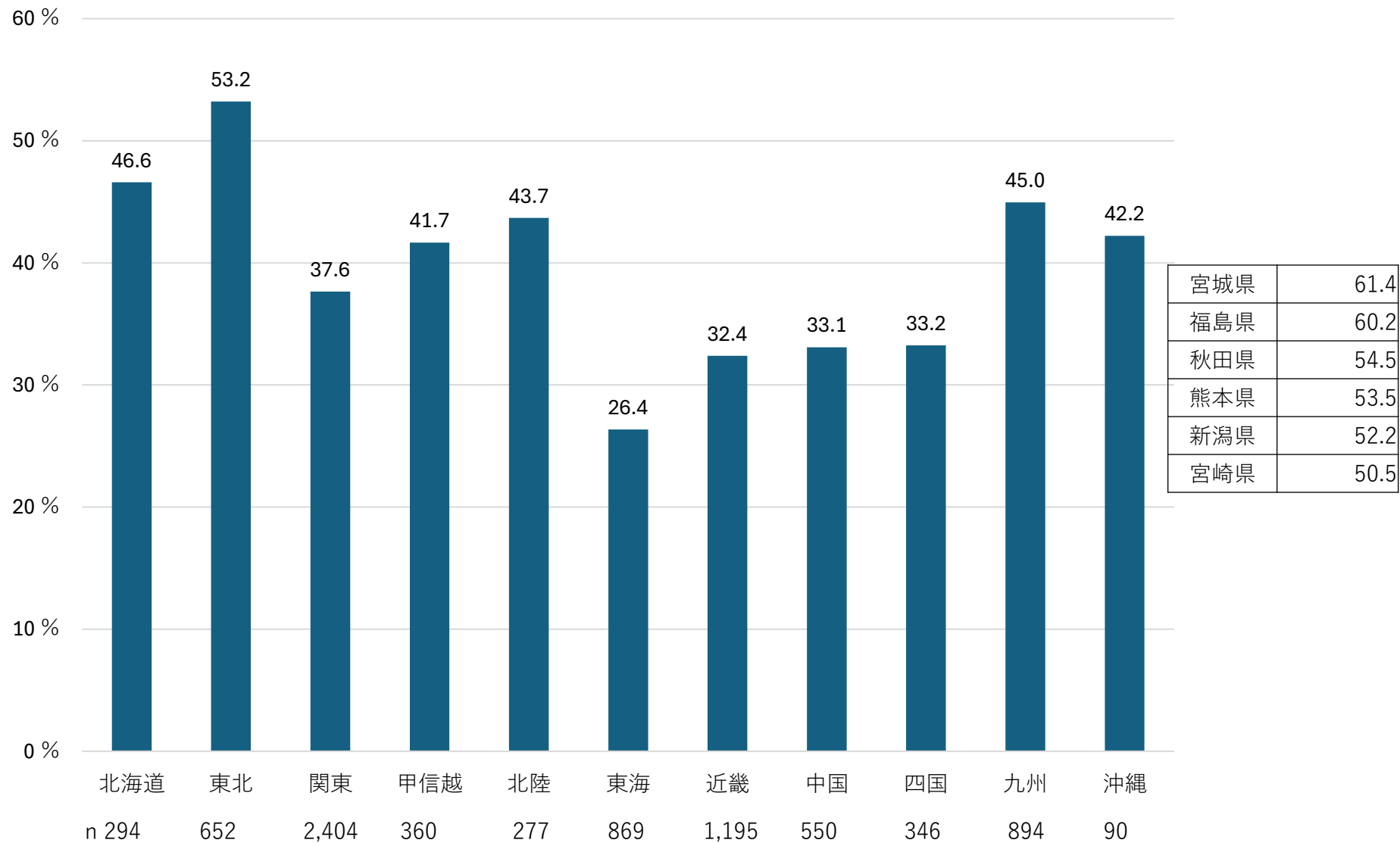
別居家族要支
援

		B	標準誤差 Wald		自由度	有意確率	Exp(B)	EXP(B) の 95% 信頼区間	
								下限	上限
属性	性別	0.253	0.051	24.455	1	<.001	1.288	1.165	1.424
	年代	0.125	0.015	65.93	1	<.001	1.133	1.099	1.168
	地域	-0.031	0.009	11.564	1	<.001	0.97	0.953	0.987
	都市規模	0.024	0.022	1.219	1	0.27	1.024	0.981	1.069
	別居家族に要支援者	-0.639	0.059	116.899	1	<.001	0.528	0.47	0.593
情報へ向き合い方	因子 探求	-0.112	0.034	10.963	1	<.001	0.894	0.837	0.955
	因子 承認	-0.068	0.036	3.551	1	0.06	0.934	0.87	1.003
	因子 限定	0.024	0.032	0.578	1	0.447	1.025	0.962	1.091
防災・災害	防災リテラシー	0.453	0.027	280.501	1	<.001	1.573	1.492	1.658
	被災経験	0.844	0.052	258.666	1	<.001	2.325	2.098	2.576
メディア接触頻度	テレビ頻度	-0.14	0.03	21.401	1	<.001	0.869	0.819	0.922
	ネット利用頻度	-0.045	0.027	2.797	1	0.094	0.956	0.906	1.008
	新聞購読頻度	0.022	0.025	0.818	1	0.366	1.022	0.974	1.073
定数		-1.615	0.208	60.451	1	<.001	0.199		
決定係数	ステップ	-2 対数尤度	Cox-Snell	Nagelkerke					
	1	9382.025a	0.135	0.184	判別の中率62.0%				

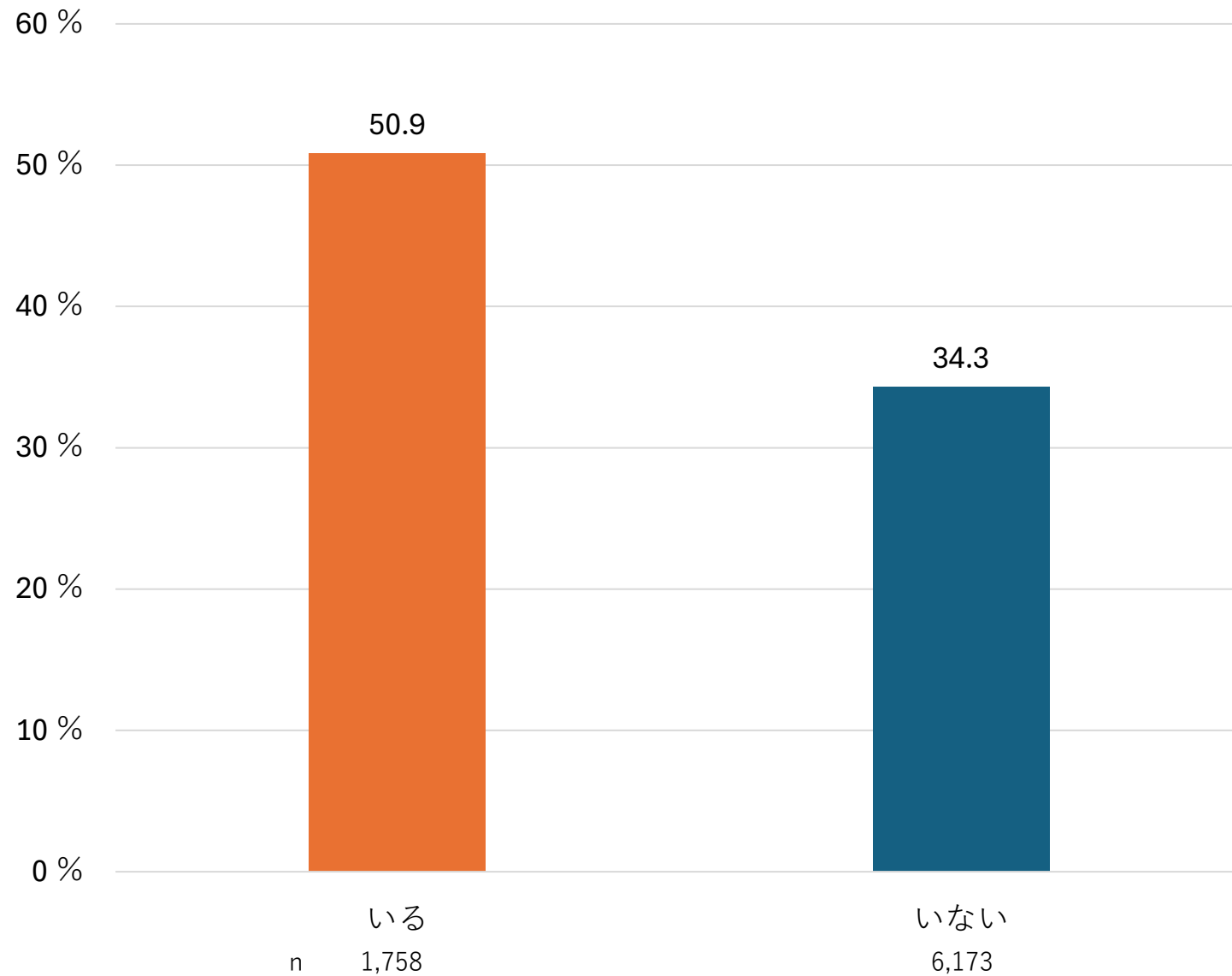
女性・50代以上で連絡した経験が多い



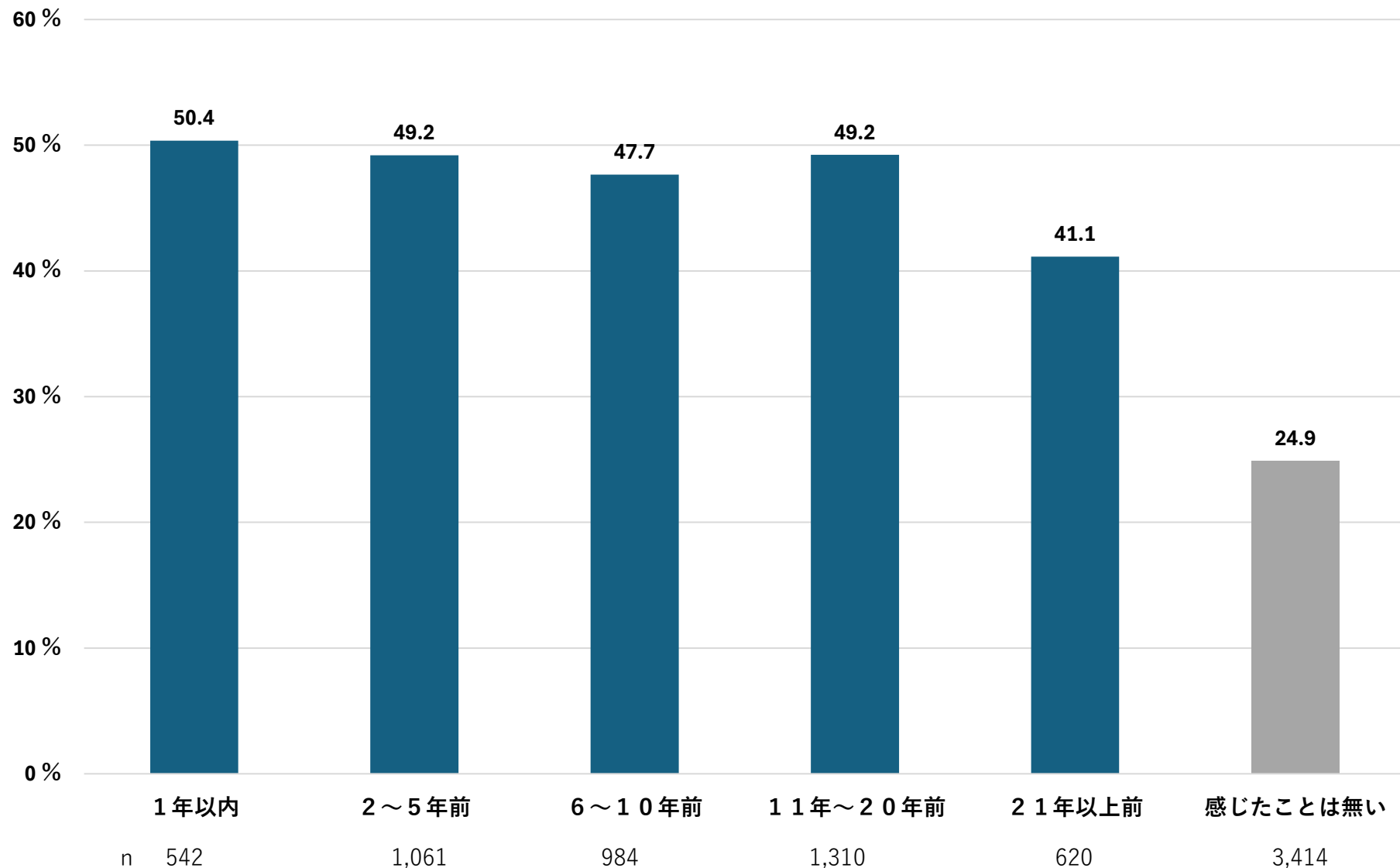
東北・北海道・九州が高い



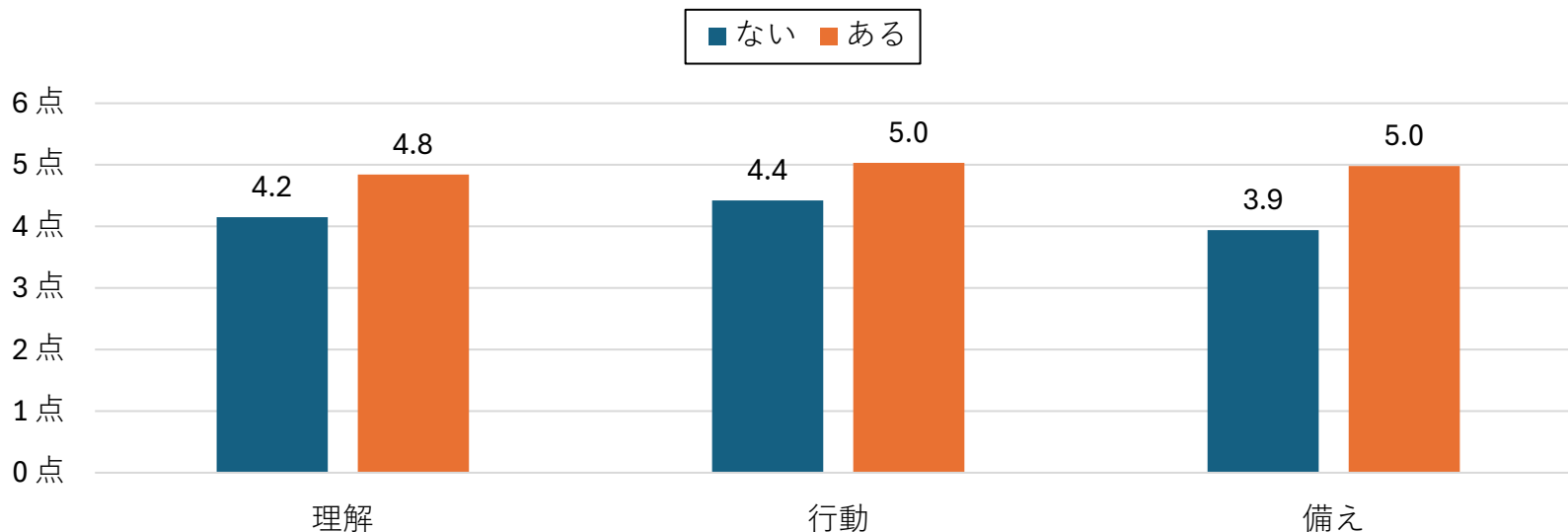
要支援別居家族がいると高い



被災や危機を感じた経験がある（20年以内では大きな差は見られない）と連絡した経験が多い



防災リテラシーの下位概念 特に「備え」に関する差が大きい

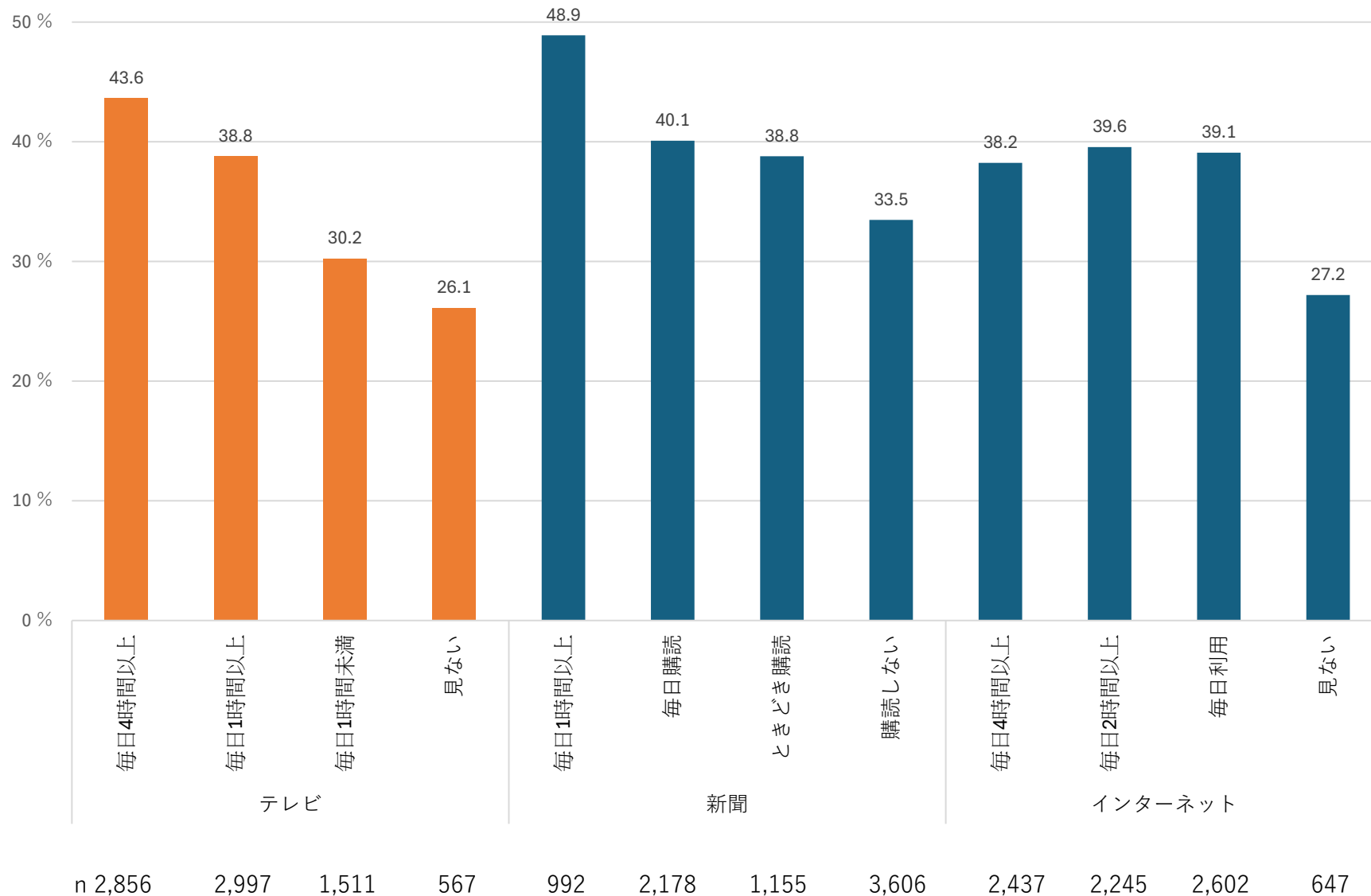


- 理解： ハザードマップをもとに、災害時にどこが危険な場所か言える
わたしの地域で過去にどのような災害が起こったか知っている } 各4件法→得点化 (2～8点)
- 行動： 災害時、避難するかしないかの判断が適切にできる
地震が起こったとき、命を守る行動を、とっさにとれる } 各4件法→得点化 (2～8点)
- 備え： 災害時の備え (非常用持ち出し袋等8項目)
災害時の家族との連絡方法を決めている } 得点化 (2～8点)

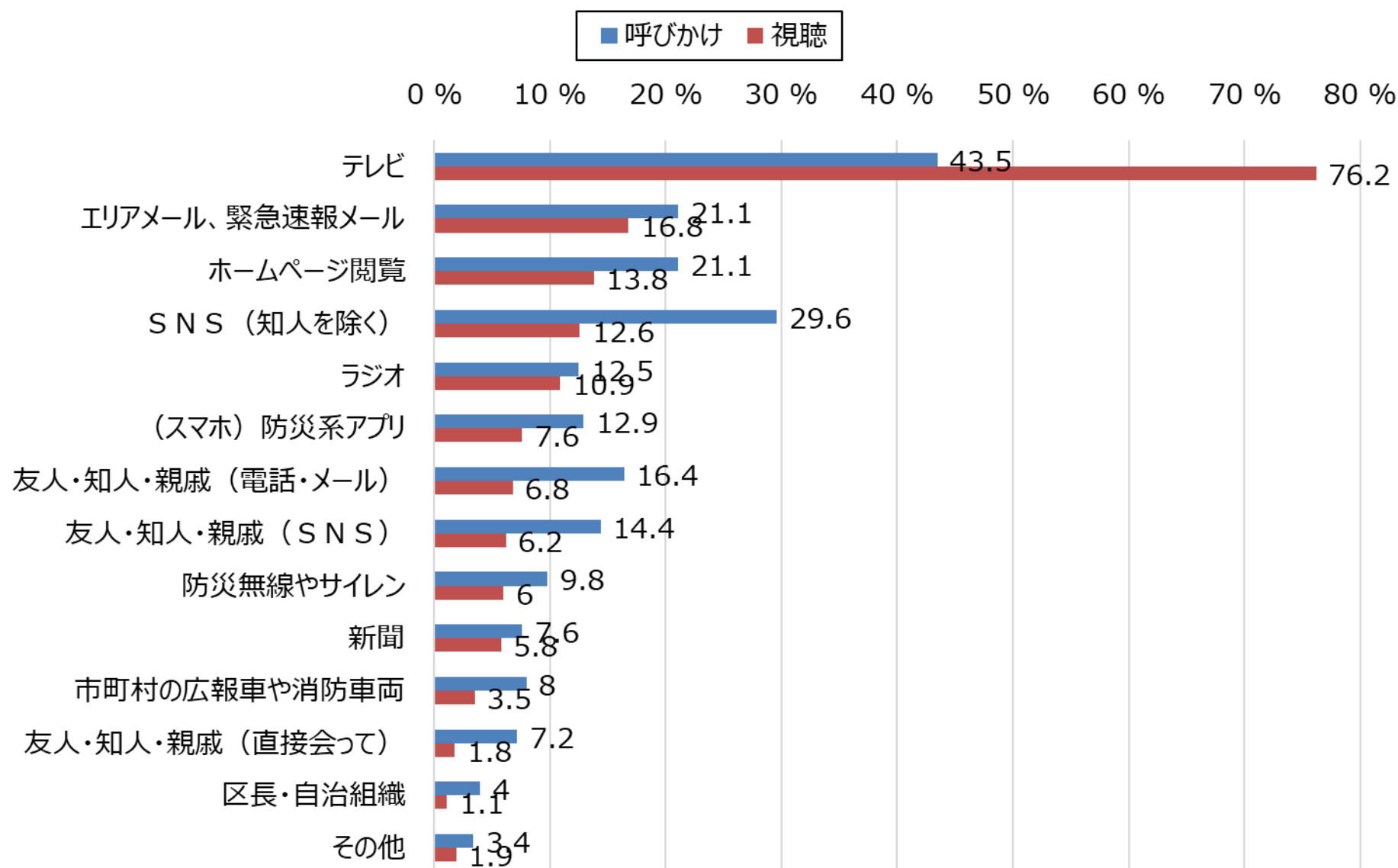
参考文献：

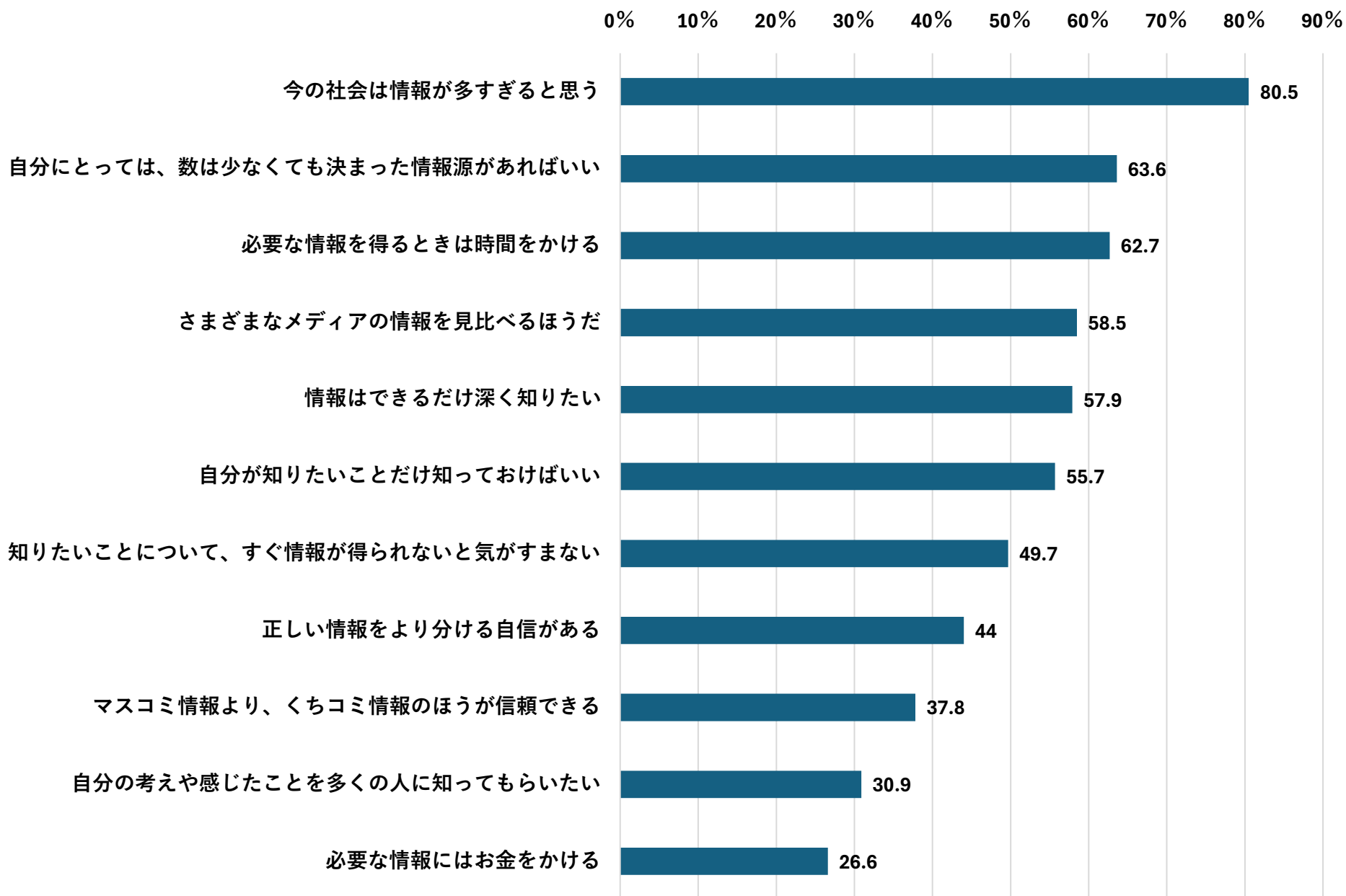
Matsukawa, A., S. Nagamatsu, R. Ohtsuka, and H. Hayashi (2024) Disaster Resilience Scale for individuals: A fundamental requirement for a disaster-resilient society, International Journal of Disaster Risk Reduction, Vol. 107, 104405.

テレビ視聴が時間が長いと多い



テレビ視聴をきっかけに連絡をとった人が多い





	因子		
	探求	承認	限定
Q14_5 情報はできるだけ深く知りたい	0.67	0.15	0.00
Q14_2 さまざまなメディアの情報を見比べるほうだ	0.61	0.16	-0.07
Q14_9 必要な情報を得るときは時間をかける	0.58	0.22	0.07
Q14_7 知りたいことについて、すぐ情報が得られないと気がすまない	0.50	0.29	0.11
Q14_6 正しい情報をより分ける自信がある	0.50	0.29	0.03
Q14_10 自分の考えや感じたことを多くの人に知ってもらいたい	0.23	0.68	0.03
Q14_8 必要な情報にはお金をかける	0.27	0.52	-0.05
Q14_11 マスコミ情報より、くちコミ情報のほうが信頼できる	0.20	0.40	0.20
Q14_4 自分が知りたいことだけ知っておけばいい	-0.04	0.04	0.70
Q14_3 自分にとっては、数は少なくとも決まった情報源があればいい	0.06	0.05	0.66
Cronbach の α 係数	0.75	0.60	0.63

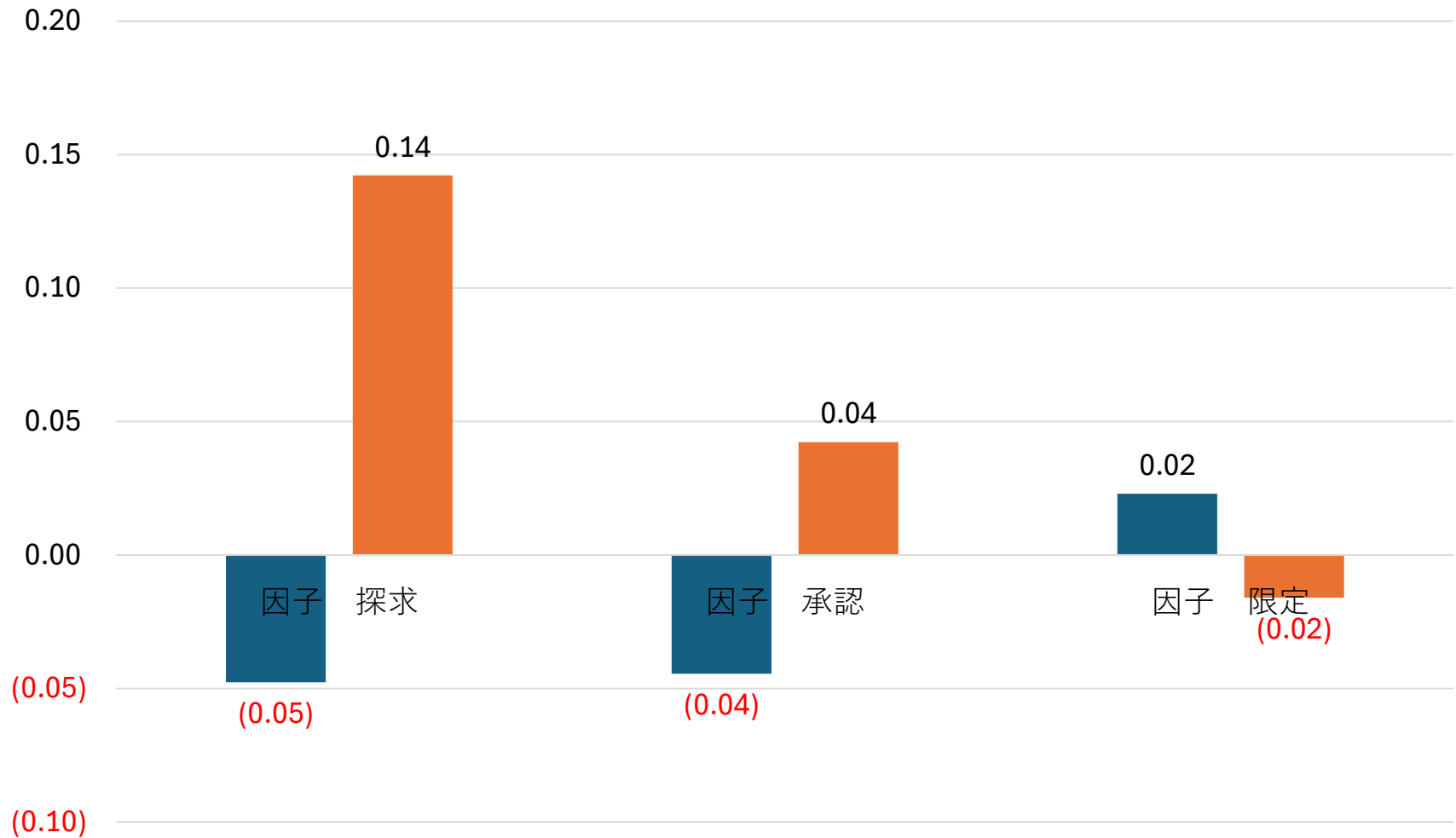
因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a 5 回の反復で回転が収束しました。

テレビ視聴をきっかけに連絡をとった人が多い

■ ない ■ ある



経験がある人の特性

被災経験

災害に関して、被害や危機を感じた経験がある高い
(20年以内では大きな差は見られない)

防災リテラシー

下位概念（知識・行動・備え）どれも高いが特に**備えが高い**

性別・年代

女性・**50代以上**

地域

東北・九州・北海道が高い

別居家族要支援

要支援が別居家族にいると高い

情報への向き合い方

探求に関する項目が高い

テレビ視聴頻度

テレビ視聴をきっかけに連絡した人が多い